

優秀賞

## 互いを理解し合うこと

徳島市立高等学校 2年 豊川 ひかる

「君たちは幸せなんだよ。」「私たちの時代なんか…。」これまでの生活の色んな場面で人生の先輩方に何度も言われてきた言葉だ。私はこのようにときに『今と昔の壁』を感じる。先輩方は自分たちの子どもの頃と、私たちの生活を比べて羨ましいと言う。贅沢だと言う。ゲームばかりせず外で遊びなさい、学校に行けることや勉強できることをありがたいと思いなさいと言う。でも私は、そんな先輩方に知ってほしい。今を生きる私たち、子どもたちも変わり続ける価値観や、抱かれる期待に追われ、必死だということ。大学入試の制度が目の前で変わったり、求められるものが高くなったたりして苦しい部分もたくさんある。便利な時代になった、自分たちは大変だったと言われても、私たちは何も言えないし、私たちがそうしたわけではなく、これが私たちが生まれてきた時代だと理解してほしくなるときもある。

そう思うのと同時に私たちも理解するべきことがあると思う。それは、自分たちだけを中心に考えないということだ。技術が進化したり、新しいものが誕生したりすることが、当たり前になっている時代の中で、自分たちが便利で活用しやすいだけの社会では平等ではない。誰かを置いてけぼりにしてはいないだろうか。知っている若者と、ついていけない大人のまににしてはいないだろうか。

伝え合えないままでいるからこそ壁は壊されることがない。私はこの壁が完全になくなることを望んでいるわけではない。でも、今と昔、生まれてきた時代や、その背景が全く同じことなんてないから、比べるのをやめたい。

幸せや苦勞の形はそれぞれだ。今と昔の間にできた壁は、これから先、消えることはないだろう。だからこそ、その壁の使い方に工夫が必要になる。壁が区別する役割になるのではなく、壁の向こう側を知りたいと思えるきっかけになるように。